寄稿

2011年秋、トレイルO公認2大会 コース設定者コメント

入間市OLC
木村治雄

2大会を運営することについて

全日本の10月開催が決定した時点で、コース設定者もコントローラも決まっていない状況であり、春の全日本から秋の全日本までわずかな期間しかなく、その間出場権を獲得するための公認大会もないという状況からスタートした。

とりあえず埼玉で10月、全日本に向けての公認大会開催を早々に決め、埼玉所属のトレイルO協会理事3名（田中、中山、木村）が当然のように競技・運営の責任者とコース設定者を務めることとなった。

春の全日本当日でも秋の事は決まっておらず、大会が終了してタイトルを獲得した私がコース設定を引き受けることになった。

世界選手権への出場もあるので、実質的には8月下旬からの2ヵ月で2試合の準備をしなければならない。しかもその片方は全日本であり、AではなくEのコースを組まなくてはならない。「大丈夫か」との声もあったようだが、大丈夫かも何も岩槻のセッターが決まっていた私が全日本も…の時点で代替案が出ないんだからしょうがないでしょ。

一方、選手としての自分の立場で見ると、全日本に出場できないのは痛い。しかももう1試合、運営では年間シリーズとしてのポイント争いでも圧倒的に不利である。来年につなげるためには何としても夏に実績を残す必要にも迫られたことは結構なストレスであった。

コースをどう構成していったか

2大会とも公園テレインであり、見通しもよく地面もよく見えて、位置関係を特定する特徴物も多い。難易度の高いコントロールを並べるのは難しい。森林公園を予定していた埼玉は岩槻に代えたことで、ますます難易度が落ちた。

岩槻は新規に全日本出場権を得る者が増えることも願って、すべて単純に並べるフラッグ設置とし、このところ難易度が高すぎて中級者がまったくついてこられない公認大会の傾向から、普通のAクラスレベルに戻す方向性であった。

全日本では、個々のコントロールで難度を追及するのは難しい代わりに、移動距離を増やし、同一フラッグの複数回使用、他選手と交錯しながらフェンス越しに眺める課題の連続、新方式のタイム・コントロール等、集中力を削り、前後複数のコントロールの組み合わせでミスを呼ぶことを期待した構成とすることでエリート選手達に対抗せんとした。

競技結果について

今年の世界選手権でも満点が多数出るなどしたため、国内の公認大会でも満点が多数出てしまっても「まあいいか」と考えていたし、実際コース完成時には難度不足を感じていた。結果として、2大会あわせて満点が1人だけなのは以外である。

岩槻については、前半で実力者が意外と失点しているのが目に付く。タイム・コントロールは別として、17コントロール中で最初の城址の7つは誰も失点しないと思っていた。公園側に出た8番のこぶからいきなり怪しくなり、勝負を分けるのは最終のこれまたこぶだと考えていた。

想定は、満点5人で以下1点減るごとに5人ずつくらいという感じだった。順位構成としては、これまでの各大会での順位から図れる実力とは多少入れ替わっている感じで、誰にでも全日本出場権獲得のチャンスがあったと思われるので、そういった意味ではまあ良しと考えている。

全日本については、結果として誰にでもタイトル獲得のチャンスがあった感じが出ている。1桁順位の選手たちは、15番で複数の選手が失点している以外はすべて違うコントロールで不正解になっている。そのどれもが上位選手の中で自分だけ失点しているパターンであり、エリート選手にとっては新たな技術の習得よりも、こういったミスをなくすにはどうするかが実は課題であることが見て取れる。また15番は、まさに13番からの3点セットで構成したコントロールで、15番をミスさせるために綿密に伏線を張った期待（？）のコントロールであり、ここを無事通過し、タイム・コントロールをミスしないことが優勝への条件となった。

一方、下位に目を向けると、大ベテラン勢が固まっている。原因はよくわからないが、パラリンピック・クラス選手の出来もよくないので、コースの長さからくる体力的なものが影響したかもしれない。ただ、トレイルOもスポーツであり、集中力を保つという意味での持久力をつけることは、この競技に必要なこととして認識しておいてもらわなければならない。

今後に向けて

準備の仕方としては、コースのセットに限っては、週2日割くとして1ヵ月時間があれば問題ない。ただ、公認大会としてコントローラを置き、プログラム等のチェック作業もあってコースの検証だけに専念してもらえないことを考えると、1ヵ月半はほしいところである。また、コース設定者、競技責任者の2名でなく、コントローラも含めてコースを決めていくことになりがちで、結果としてコントローラがコース設定側の立場で物を見てしまい、コースの問題点に気づきにくい傾向があると思われる。なので、別途コースに関し第三者的な目で見て問題点を指摘する担当がコントローラの他にいた方がよい。

今回の2大会においても、地図の表記の修正が十分でないところがあり、いくつか競技者から指摘を受けた。前日にセッティングにかかわっていないスタッフにコースを見せ、気づいた点を指摘してもらい、そこからの時間で直せる程度の範囲で修正するだけでも、かなり改善することができ、公平性が増して好勝負が増えるであろう。

２大会のコース設定を担当した木村治雄（国営越後丘陵公園にて藤島由宇撮影）

（木村治雄）